

「岩手県久慈市及び山田町との交流と支援、ボランティア研修」について

1 経緯と取組概要

東日本大震災発生から2年以上が経過し、被災地においては、復旧・復興が課題となっている一方、それ以外の地域では震災の記憶の風化が危惧されている。そのような中、三重県は、震災廃棄物の広域処理の問題を契機として、岩手県久慈市への支援と交流を推進することとなった。

このことを踏まえ、県教育委員会は、三重県の高校生が、被災地の現状に触れ、ボランティア体験を経験することにより、防災意識を高め、社会の一員としての責務を自覚することと、豊かな自然と素朴な伝統文化に触れることにより、感性を養い、久慈市、岩手県と三重県の交流の担い手となることを期して、「岩手県久慈市及び山田町との交流と支援、ボランティア研修」を実施した。

2 取組状況

(1) 日程等 平成25年8月5日(月)～8月9日(金)

平庭山荘コテージ(久慈市)等に宿泊(車中1泊)

貸切バスにより移動

(2) 訪問先 岩手県久慈市、山田町

(3) 参加者 高校生18名、教職員7名、県教委1名(計26名)

久居高校(生徒2名、教職員1名)

宇治山田高校(生徒6名、教職員2名)

南伊勢高校(生徒10名、教職員4名)

* 全県立学校に対し公募を行い、応募校の中からボランティア実績、成果の活かし方等により選出

3 取組内容

(1) 事前学習会

7月23日に参加者を対象とした事前学習会を実施した。

(2) 研修内容

8月6日、7日に久慈市において、ふるさと体験学習により、洞窟探検、カヌー・カヤック、シャワークライミングを実施した。

8月7日に、山田町において、「save the children 子どもまちづくりクラブ」のメンバーと事前学習及び交流会を行った。

8月8日に、山田町において、仮設住宅等7箇所ボランティア活動と住民との交流を行った(参加者65名)。

4 成果の活かし方

(1) 各校による成果の還流

各校において参加校の文化祭等での発表の活動により、校内に成果を還流する（全参加校）。

地元住民、保育園、小中学校と共同の防災訓練、防災学習に成果を活用する（宇治山田高）。

市町、地元商工会と共同で地域の防災活動、防災学習に参画する（南伊勢高）。

(2) 報告書

参加者のレポートを中心とした報告書を作成し、私学を含む県内の高校に配布する。